

UOTER CITY

1 現状分析 街の魅力と課題

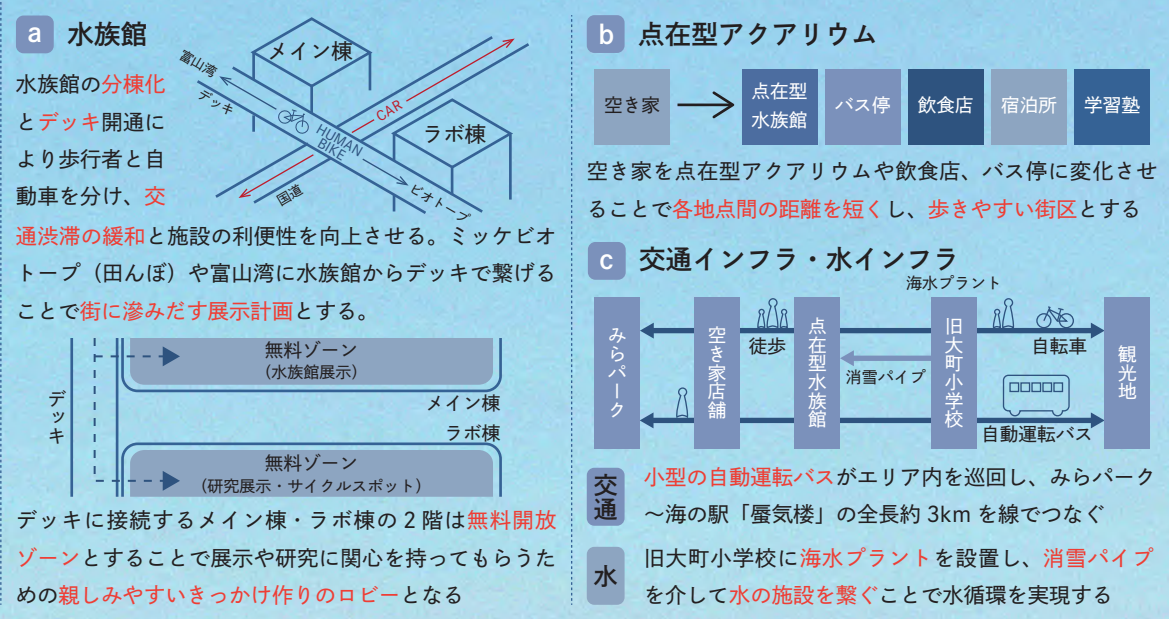
- 街の魅力**
- ①豊富な水資源
・富山湾から立山連峰の約 2,500m の標高差が魚津市を横断し、海から山の**水資源が潤沢かつ水循環が完結する土地**である
 - ②歴史ある観光資源
・米倉や埋没林など魚津固有の観光資源を有する
- 課題**
- ①交通の課題
・幹線道路の渋滞の発生
・公共交通機関の減少（非車ユーザーの観光客の移動方法）
 - ②観光資源の点在
・魚津市が持つ魅力ある観光資源（魚津水族館、米倉、埋没林博物館、海の駅「蜃気楼」、おさかなランド）が市内に点在し、エリア内の連続した観光が難しい
 - ③空き家の対策
・人口減少に伴い空き家が増加し、維持管理の負担が増える
 - ④飲食店の少なさ
・みらパーク近辺に飲食店がなく、終日利用が難しい

2 コンセプト

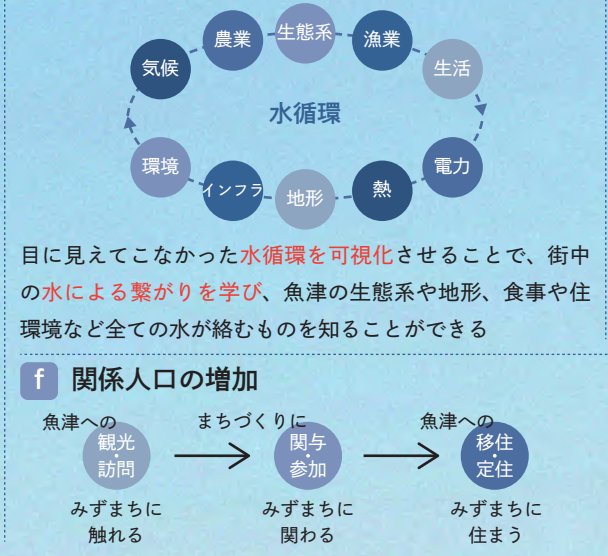
魚津市は山々に降り注いだ雨や雪が、様々な形で富山湾へ流れ込み、蒸発を経てまた魚津市へ潤いをもたらす、世界的に稀有な、**水循環が完結する地形**を持つ「みずまち」といえる。そうした背景のもと、歴史のある水族館、東山円筒分水嶺、埋没林博物館といった水に関わる観光スポットが存在するが、点在していることで効果的な街の回遊には繋がっていない。そこで、**消雪パイプ**をはじめとした水インフラ、蜃気楼ロードをはじめとした交通インフラに着目し、**空き家や学校を活用**しながら、観光スポットを繋ぎ、「点」から「線」そして「面」的に広げるよう計画する。

本計画では魚津市が抱える様々な課題を「**学び**」と結びつけた「**水循環**」の可視化によって解決し、周辺の水環境と一体的に**街全体を水族館化**する魚津市独自の**みずまち「UOTER CITY」**を提案する。

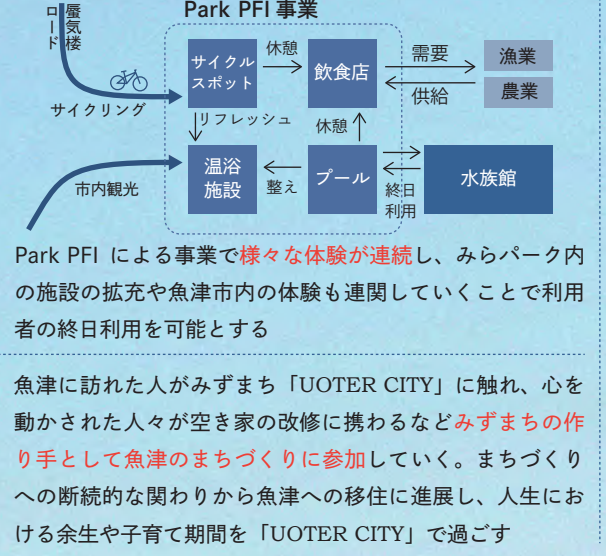
3 街の整備手法



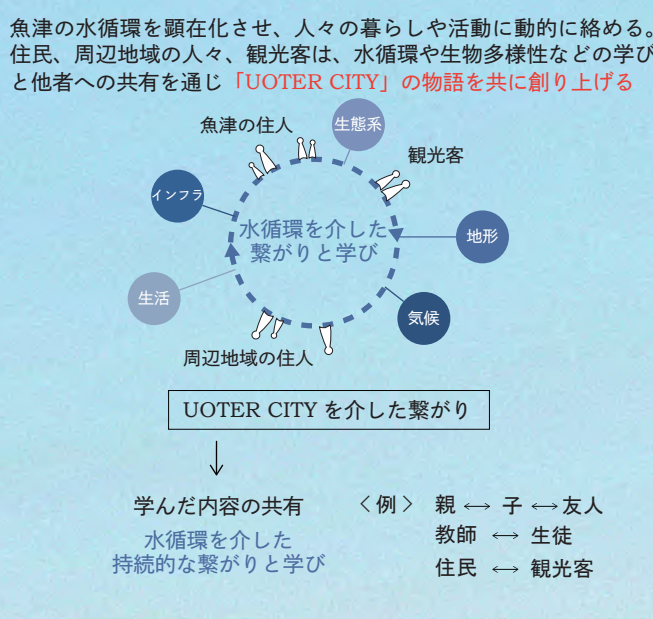
d 水循環の可視化



e Park PFI による体験の拡がり



4 目指す理想像 「UOTER CITY」物語



5 「UOTER CITY」の水循環とそこで得られる多様な学び

- ①魚津の地形についての学び
富山湾から早月川、山々へと続く**デッキ型サイクリングロード**を設ける。雄大で特異な地形環境を**自らの身体を通して**五感で味わい、心に刻む体験を得ることができる。
- ②魚津を巡る大きな水循環についての学び
周辺地形と一体化した水族館を建設することによって、山から川、富山湾への**水循環を顕在化**させた風景を創出する。また**周辺の生態系**を水族館内にも引き込むことで、水循環に対して豊かな理解を得ることができる。
- ③水の性質についての学び
地下水を活用した**足湯**に浸かり、魚津を巡る**水を肌で感じる**ことで、自分自身も水循環と結びついて豊か理解を得ることができる。
- ④インフラについての学び
街を支える**インフラである消雪パイプ**に対する理解を通して、地下水からの水の流れとその有用性について学ぶ。
- ⑤生物多様性についての学び
アクアリウムにて、**海洋生物に直接触れる**ことを通して、生物の生態系などについて実体験の中で学ぶことができる。
- ⑥海産物資源についての学び
魚津特有の新鮮な海産物を、**自ら捌いたり、食事をする**中で、食資源の大切さを再確認する。
- ⑦水の美しさについての学び
アートアクアリウムに包まれることで、水や光の揺らめきの中で、水の本来の美しさを再認識する。
- ⑧雨水利用についての学び
段状で緩やかな屋根を経由して**水が水盤（雨水貯留浸透施設）へと流れる様子**が見られる。これらは**災害用水**や**植栽灌水**へ使用される。また水を利用した雪室施設も見学することができる。

